

登録コード	A2511300	開講年度	2026				
授業科目	国際共修プログラムB					担当教員	城田 徹央 他
英文授業名	Collaborative Online International Lectures B						
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	森林・環境共生学コース3年生
講義室				授業形態	講義	遠隔授業科目	
						備考	副専攻プログラムで森林・環境共生学コースを選択している3年生も受講可
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2022Aカリ, 2021Aカリ, 2020Aカリ, 2019Aカリ						
	【2022年度以前カリキュラム対象】専門的な知識や研究能力を修得している				⇔	国際的に発信できる国内の専門的な知識を有する。	
	【2022年度以前カリキュラム対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している				⇔	国内地域の専門的な知識を有し、総合的な視点から整理して問題点を抽出し、国際的な場で発信できる。	
	2026A3編(24A), 2025A3編(23A), 2024Aカリ, 2023Aカリ						
	【2024年度以前カリキュラム対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。				⇔	国内地域の専門的な知識を有し、総合的な視点から整理して問題点を抽出し、国際的な場で発信できる。	
	【2024年度以前カリキュラム対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。				⇔	国内地域の専門的な知識を有し、総合的な視点から整理して問題点を抽出し、国際的な場で発信できる。さらに議論を通じて異文化相互理解を進めることができる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	This course is an online lecture in collaboration with the Rottenburg University of Forestry in Germany. Before creating presentations, students will be involved in field surveys, interview surveys, and literature reviews. Participants are expected to possess a global perspective along with a local focus. 信州大学農学部と海外学術交流協定校の学生がWeb会議システムを通して参加する国際PBL型(Project Based Learnig型)の講義形態で授業を実施する。最初に、双方の大学の教員が、国内外の農林畜産業や経営管理について概要を解説し、本講義の課題を設定する。双方の学生が、それぞれの国の農林畜産業の生産・管理・流通・消費などの持続的発展と課題を踏まえて、グループごとに情報を収集し発表資料をPower Pointで作成する。Web会議システムを通して、双方の学生が英語で発表・質疑応答を行う。						
(5)授業計画	Online lectures with Rottenburg University, Germany, will be conducted monthly from October to January. Students are required to deliver at least one presentation during these four online sessions. The preparation for presentations typically takes approximately one to two months. Students are expected to create presentation files based on field surveys, interviews, or literature reviews. The presentations, conducted in English, will include both the presentation itself and a question-and-answer session. 1. 海外協定大学 ドイツ・ロッテンブルク林業大学 2. 基本的な授業の進め方 ・第1回目にガイダンスを実施しプログラムの概要を説明します。 ・ガイダンスおよび自己紹介 ・講義：日本の森林管理・環境管理の発展と課題 ※協定大学も同じように、その国の森林管理・環境管理について学びます（英語＋日本語） ・グループワーク：日本の森林の発展と課題につて情報収集・プレゼン準備 ※少人数のグループに分かれ、グループごとにテーマを決めて、英語と日本語で文献を調べ、英語でプレゼン準備を行います。 ・英語でのプレゼンテーションスキルの向上 ※実際に英語でのプレゼン練習や、質疑応答を想定した練習をします。 ・協定校と双方向でのプレゼンテーションの実施および質疑応答 ※オンライン会議システムで協定校とつなぎ、双方向でグループごとにプレゼンを実施し、質疑応答や意見交換を行います。 ・最後に、まとめのセッションで感想や意見を伝え合います。 ・課題として、テーマごとにレポートを作成し、提出を課します。 ・また、最後のオンラインミーティングの後、アンケートを実施します。						
(6)自主学習の指針	Students are recommended to read articles related to the lecture content. 関連する文献（日本語・英語）を読み情報を収集するとともに、それぞれの分野で必要な科学英語および英語での文章作成・プレゼン力を向上させて下さい。 調査、プレゼン作成は各グループで実施します。						
(7)成績評価の基準	The student will get credits for this lecture when they get a score of over 60 points for reports that measure scientific English skills. プレゼンテーションおよびレポートで60点を取れば可とする。ただしオンラインミーティングの3/4に出席できない場合、プレゼンテーション作成に積極的に参加しない場合には単位を認定しない。 60 points or more: It reaches the lowest level. If you cannot attend 3/4 of the online meetings						

(7)成績評価の基準	and do not actively participate in the presentation preparation, no credit will be awarded. 70 points or more: level reached. 80 points or more: Excellent. 90 points or more: Excellent in particular. 60点以上：最低の水準に達している。 70点以上：水準に達している。 80点以上：優れている。 90点以上：特に秀でている。
(8)事前事後学習の内容	Students are encouraged to learn basic English grammar and words in advance. 英語レベルは問わないため、事前に英語学習に励むことを推奨する。
(9)テストやレポートの予定	Students are requested to submit a report to each lecture. 各セッションごとにレポートを課す（実施するテーマごと）。
(10)成績評価の方法	Students will be evaluated comprehensively by averaging scores of each report. 各セッションでのプレゼンテーション力、レポートの評価点を平均して総合的に評価する。
(11)質問、相談への対応および連絡先	Inquire each lecturer. Class coordinator: Shirota Tetsuo:shirota@shinshu-u.ac.jp, Hamano Mitsuru:hamano_m@shinshu-u.ac.jp, Yonekura Shinichi:yonekura@shinshu-u.ac.jp 担当教員に問い合わせること。 窓口となる教員：城田 shirota@shinshu-u.ac.jp
(12)履修上の注意	Students are encouraged to acquire a certain level of English skills in advance. ある程度の英語力を身につけておくことが好ましい。 Also, prior research, presentation creation, and presentation delivery are predominantly based on group work. Active participation from each member is strongly required.If a lack of proactiveness is observed, the evaluation will be lowered, or credits may not be granted. また事前調査，プレゼン作成，プレゼン発表はグループワークを基調とする。一定の積極性を以てそれぞれに参加することが強く要求される。積極性が認められない場合，評価が低くなるか，あるいは単位が与えられない。 Unlike the basic Collaborative Online International Learning (COIL) courses, this program focuses on specialized themes (e.g., Contemporary Satoyama Management in 2022, Ecosystem Services Payments in 2023, Forest Education for Sustainable Development). Therefore, having acquired credits in foundational and applied subjects related to forestry science is desirable. 積極的・能動的な参加態度が最も重要である。基礎的なCOILと異なり，専門的なテーマを取り扱う（2022年度は現代の里山管理，2023年度は生態系サービスへの支払い，2024年度は持続的開発のための森林教育）。そのため森林科学に関する基礎科目，応用科目の単位を修得していることが求められる。 This course assumes basic forest science knowledge; therefore, it is generally intended for third-year students in the Forest Course. However, students from other courses who have chosen the Forest Course as a minor and have obtained sufficient credits may be allowed to participate. In such cases, communication will be conducted via email, and a meeting may be arranged before registration if necessary. 本科目は森林科学に関する基本的な知識を前提としているため，原則，森林コース3年生を対象にしている。ただし，副専攻プログラムで森林コースを選択しており，かつ十分な単位を修得している他コース3年生の参加を認めることがある。この場合，メールによるやり取りを行い，必要に応じて履修登録の前に面談を行う。
【教科書】	None specified. 特に指定しない。
【参考書】	None specified. 特に指定しない。